

U2-2022-

専門多肢

試験問題

注意事項

1. 問題は**60題(63ページ)**あります。受験する区分に応じ、次のとおり解答してください。
 - **矯正心理専門職区分**
問題は必須問題 20 題(No. 1 ~No.20)と選択問題 40 題(No.21 ~No.60)に分かれています。選択問題については**任意の 20 題**を選択の上、必須問題と合計して**40 題**を解答してください。
なお、選択問題については、20 題を超えて解答しても超えた分については採点されません。
 - **法務教官区分、保護観察官区分**
No.21~No.60 の全ての問題(**40 題**)を解答してください。
No. 1~No.20 の問題には解答しないでください。
2. 解答時間は**2 時間 20 分**です。
3. この問題集は、本試験種目終了後に持ち帰りができます。
4. 本試験種目の途中で退室する場合は、退室時の問題集の持ち帰りはできませんが、希望する方には後ほど渡します。別途試験官の指示に従ってください。なお、試験時間中に、この問題集を切り取ったり、転記したりしないでください。
5. 下欄に受験番号等を記入してください。

第1次試験地	試験の区分	受験番号	氏名
--------	-------	------	----

指示があるまで中を開いてはいけません。

No. 1～No. 20

(矯正心理専門職区分)

No. 1～No. 20 は**必須問題**です。これらの問題について、**全てを解答**してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

(法務教官区分、保護観察官区分)

No. 1～No. 20 は矯正心理専門職区分の必須問題です。これらの問題については解答しないでください。

【No. 1】 次は、神経伝達物質に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

A : 興奮性神経伝達物質であり、意欲や気力に関わっている。この神経伝達物質が減少することで、「うつ」の症状が引き起こされる。投薬により、脳内のこの神経伝達物質の量を増加させると、「うつ」の症状が改善することが知られている。

B : 報酬や運動の調節に関与する神経伝達物質であり、パーキンソン病との関連が指摘されている。また、この神経伝達物質は、統合失調症の幻覚、妄想等の陽性症状と関連するとされている。

C : 体温や血圧等の身体機能、睡眠、気分などの調節に関与する神経伝達物質であり、その90%近くが腸管に存在する。LSDという薬物は、この神経伝達物質に関係する依存性薬物で、強い幻覚症状を引き起こすとされる。

D : 海馬や大脳皮質に存在する神経伝達物質で、学習、記憶などの機能に関係する。アルツハイマー病との関連が指摘されており、アルツハイマー病の患者では、この神経伝達物質を産出するニューロンが変性する傾向にある。

	A	B	C	D
1.	ノルアドレナリン	ドーパミン	セロトニン	アセチルコリン
2.	ノルアドレナリン	セロトニン	ドーパミン	GABA
3.	ノルアドレナリン	セロトニン	アセチルコリン	ドーパミン
4.	GABA	ドーパミン	グルタミン酸	アセチルコリン
5.	GABA	グルタミン酸	セロトニン	ドーパミン

【No. 2】 人間の記憶に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 短期記憶容量の限界は、W. M. ヴントによって1880年代に報告されている。この範囲には個人差が存在するが、 7 ± 2 の間に収まることが知られており、この数字をG. A. ミラーはマジカルナンバー 7 ± 2 と呼んだ。この値は能動的なりハーサルなどの方略や様々な要因からの影響を受けず、そうした方略が何らかの方法で妨害されたとしても、 7 ± 2 となることが知られている。これがマジカルナンバーと呼ばれるゆえんである。
2. ワーキングメモリは、計算や推論、読解といった何らかの認知課題遂行中に、一時的に必要な記憶の働きを指す。現在では、そうした機能を実現するための記憶システムとして捉えられることも多い。A. D. バドリーのワーキングメモリに関するモデルの特徴は、音韻的な情報と視空間的な情報とが同じサブシステムによって保持されると仮定しているところにあり、いずれの情報も中央実行系と呼ばれるシステムが保持機能を担うとされている。
3. 系列位置効果は、二重貯蔵モデルによって説明できるとされる。これに対し、F. I. M. クレイクとR. S. ロックハート(Craik, F. I. M. & Lockhart, R. S., 1972)は、系列位置効果のデータは二つの記憶の貯蔵庫を仮定しなくても処理水準という概念によって説明可能だとしている。文字表記形態や音韻のような浅い処理よりも、意味的な深い処理を行うことで記憶痕跡が強固になり、再生や再認がされやすくなるという。
4. 潜在記憶は、知覚同定課題や単語完成課題といった、「思い出すように」という教示を与える課題によって測定される。典型的な単語完成課題では、「し□り□く」のような未完成の単語が提示され、この単語が何であるのか、同定するよう求められる。事前に「しんりがく」という単語を見ていた場合には、そうした経験がない場合に比べて、正答できる割合が高くなる。これを接種効果という。
5. 直接プライミング効果は、対象となる語彙を認識するとき、前もって意味的関連性をもつ語彙(プライム語)が提示された場合に、関係のない統制語などが提示された場合や何も提示されない統制条件と比べて反応時間が短くなる現象のことをいう。プライム語の先行提示により、その語と意味的関連性をもつ語彙項目に対して、あらかじめ一定の活性化がもたらされるために生じると考えられており、これを転移適切性処理(transfer appropriate processing)という。

【No. 3】 J. ガルシアと R. A. ケリング(Garcia, J. & Koelling, R. A., 1966)によるラットを用いた味覚嫌悪学習の実験に関する記述として最も妥当なのはどれか。

なお、複合刺激とは光と音が同時に提示される刺激を指し、味覚刺激とは甘みが添加された水を指す。また、X線はラットに気分不快をもたらす、電気ショックは身体的苦痛をもたらすものである。

1. この実験では、複合刺激や味覚刺激を条件刺激、X線や電気ショックを無条件刺激とした条件づけが行われ、条件づけの前後で味覚刺激や真水の摂取回数が測定された。この実験の結果から、生態学的な基盤により、光や音といった刺激は電気ショックによる身体的な痛みと連合しやすいが、甘みといった刺激は電気ショックによる痛みとは連合しにくいことが示された。
2. 味覚刺激をなめると複合刺激が提示される条件下でX線が照射された群において、味覚刺激をなめると複合刺激が提示されないときには味覚刺激の摂取回数が減少し、真水をなめると複合刺激が提示されるときには真水の摂取回数が減少した。これらの減少率は同程度であり、この実験の結果から、X線による気分不快と、甘み・光・音とが、等しく連合することが示された。
3. 真水の摂取回数は、条件刺激である電気ショックやX線の提示の前後で変化はなかった一方、中性刺激である味覚刺激の摂取回数は、条件刺激の有無を問わず、無条件刺激である複合刺激があるときに減少した。この実験の結果から、X線による気分不快は、電気ショックとは結び付きにくい、味覚刺激とは結び付きやすいことが示された。
4. X線により気分が悪くなったラットは、複合刺激の有無を問わず、実験で設定されたいずれの条件下でも、味覚刺激の摂取回数が増加した。これは、X線による気分不快は味覚刺激の摂取から一定時間経過してから生じるために学習が行われにくく、甘い味が好まれたことの結果であると考えられている。
5. 味覚刺激を無条件刺激、X線を条件刺激として条件づけを行い、X線照射前後で味覚刺激の摂取回数を測定した。その結果、X線照射前後で味覚刺激の摂取回数は変わらなかった。これは、X線による気分不快と、味覚刺激とを結び付けるかは、ラットの個体差の問題が大きいためであると考えられている。

【No. 4】 攻撃に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. A. アドラーは、人間には死の欲動、すなわちタナトスがあらかじめ備わっているとした。タナトスは、劣等感を補償し克服しようとする衝動であり、その一部が外界へと向きを変えて攻撃という形を通じて発現する。つまり、攻撃はタナトスの派生物と位置付けられる。
2. J. ダラードらは、欲求不満－攻撃仮説を主張した。この仮説では、欲求不満によってもたらされる怒りだけではなく、攻撃を誘発する手がかりの存在も、攻撃の開始や促進を決定付ける重要な要因であるとする。彼らは、欲求不満に理性的・合理的に対処し、適応的に問題解決を図る能力を欲求不満耐性と呼んだ。
3. K. A. ドッジの認知的新連合理論では、攻撃行動の習得に際して、直接的な対人関係における学習だけではなく、模倣による学習の過程を重視する。つまり、この理論では、模倣の対象となるモデルに対する刺激注意・感受、表象形成、反応生成、反応評価・決定という過程を経て、攻撃行動が習得されるとしている。
4. K. ローレンツは、攻撃には種の維持機能があると考え、攻撃に関する水圧モデルを提唱した。また、動物では、同種の個体間では対立する当事者双方に抑制メカニズムが働き、同種個体同士で死に至るような抗争はまれであり、抗争があっても一方が優位に立つと劣勢に立つ側が敗者シグナルを送り、勝者はそれを受け入れ、攻撃を止めるとした。
5. C. A. アンダーソンらは、攻撃に至る経路を衝動的な経路と目標志向的な経路の2種類に分けた社会的情報処理モデルを提唱している。このモデルでは、「入力」段階で個人要因と状況要因が考慮され、「経路」段階で、感情・認知・覚醒がそれぞれ独立に機能し、評価に基づいて最終的な「結果」として攻撃の実行がもたらされる。

【No. 5】 次は、パーソナリティの人-状況論争に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

人間行動の規定因として、人と状況の双方を強調する考え方は古くから存在した。例えば、行動主義において、J. B. ワトソンは、環境を個別の刺激に分節化し、刺激に対する反応として人間行動の分析を試みた。これは、側の要因を重視する立場であるといえる。

また、ゲシュタルト心理学における、K. コフカの地理的環境に対する行動的環境や、パーソナリティ心理学における、H. A. マレーの-圧力理論に基づく主観的な認知としての環境であるβ圧力などの概念は、いずれも行動が個々人の認知した心理学的状況によって規定されるとする考え方である。これらの考え方は古典的相互作用論と呼ばれる。

そして、パーソナリティ研究の進展に伴い、次第に、人の行動の説明因としてパーソナリティ特性を中心とする人の側の要因が注目を集めるようになった。

これに対して、W. ミシェルは『パーソナリティと評価』(Mischel, W., 1968)において、当時のパーソナリティ研究の動向に対し、行動の規定因として状況変数が軽視されていることを中心に、行動の通状況的一貫性や、特性のへの疑問、特性評定による予測の有用性への疑問などを骨子とする批判を行った。

こうした指摘を受けて、主としてを支持する研究者と、W. ミシエルの依拠する社会的学習論に基づく考え方を支持する研究者の間に生じた、行動の原因として人の内的要因が重要か外的な状況要因が重要かをテーマとする論争を人-状況論争と呼ぶ。この論争における折衷的立場として注目されたのが、新相互作用論と呼ばれる考え方である。新相互作用論は、N. S. エンドラーとD. マグヌセン(Endler, N. S. & Magnusson, D., 1976)により提唱されたアプローチで、人間行動の説明に、内的要因と状況要因の複合的な影響を重視する立場であった。

A	B	C	D	E
1. 状況	欲求	内的実在性	行動	特性論
2. 状況	欲求	外的妥当性	状況	特性論
3. 状況	動因	内的実在性	状況	類型論
4. 人	欲求	外的妥当性	行動	特性論
5. 人	動因	外的妥当性	状況	類型論

【No. 6】 知能に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. E. L. ソーンダイクは、知能を三つの因子とその下位因子から成るとするモデルを提唱した。このモデルは知能構造を三つの主要な因子が支えるという観点から、多重知能理論と呼ばれる。この理論は、各主要因子に対応する理論である、コンポーネント理論(componential subtheory)、経験理論(experiential subtheory)、文脈理論(contextual subtheory)から構成される。
2. J. R. フリンは、代表的な知能検査における新旧の換算表を比較し、IQ が年換算で 0.3 点ずつ上昇する現象を見いだした。この現象は、程度の差こそあれ調査対象となった欧米 14 か国全てで見られ、流動性知能を測定する検査よりも、レーヴン・色彩マトリクス検査のような結晶性知能を測定する検査で特に顕著であった。
3. J. P. ダスと J. A. ナグリエリは、ウェクスラー式知能検査の非言語的要素に関わる課題である動作性下位検査を発展させ、認知能力という観点から知能を概念化した PASS 理論を提唱し、この理論に準拠した知能検査である DN-CAS を開発した。この検査では、プランニング、知覚推理、同時処理、継次処理という四つの標準得点を算出する。
4. C. E. スピアマンは、多様な検査の結果を統計的に分析し、知能が一般知能因子と特殊因子から構成されるとする知能の 2 因子説を唱えた。一般知能因子は、s 因子とも呼ばれ、知能検査や教科学習の課題を遂行する上で、共通して機能する全般的な知能であるが、階層的構造モデルを提案した P. E. ヴァーノンの因子分析研究により、頑健な因子ではないことが示された。
5. L. L. サーストン は、知能に関する 57 種の課題について因子分析を行った結果から、知能には少なくとも七つの因子が存在するとして、知能の多因子説を主張した。因子分析を用いた知能研究の流れは、コンピュータの性能向上に伴い、より多くの課題を扱う研究へと発展し、120 もの因子を想定する J. P. ギルフォードの知性の構造モデルへと展開した。

【No. 7】 犯罪や非行に関わる性質や行動に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 反社会性パーソナリティ障害は、他人の権利の無視と侵害を特徴とし、犯罪行為と密接に関わる。早期介入の観点から、DSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル)では、良心の呵責^{かしやく}の欠如、社会規範への不適合性、虚偽性などが顕著に認められる場合、その人が15歳に達していれば、既往歴を問わず、この障害を診断することが可能である。
2. 反抗挑発症は、DSM-5によると、通常、児童期に発症し、嘘^{うそ}、いじめ、窃盗など、法律や他人の権利を侵害する重大な反社会的・攻撃的な行動が反復する。また、過酷で、一貫性を欠き、ネグレクトのある子育ての仕方といった環境要因との関連性は示されておらず、遺伝的・生理学的要因が大きいとされる。
3. 反抗挑発症は、自分の失敗を他人のせいにして非難し、権威に対して極めて挑戦的で悪意ある行動パターンを示す。DSM-5によると、これらの行為は、相手の反応を楽しむ目的で行われ、怒りっぽさや易怒的な気分といった情動の調節の問題や、欲求不満に対する耐性など、気質的な要因は発症と関連しないとされる。
4. 素行症は、DSM-5によると、怒りっぽく、かんしゃく持ちで、大人や権威ある人物との間に葛藤をもたらすような素行上の問題と関係する。反抗挑発症と一部重複するが、問題行動は、家庭や学校、職場での素行の悪さに限られ、反抗挑発症に典型的に見られる行為ほど重篤な性質をもつものではない。
5. 素行症は、DSM-5によると、大多数の人では、成人期までに寛解するという。特に青年期発症型で症状が軽度で少ししかない人では、成人になると十分に社会的職業的適応を達成しているとされる。一方、早発型はより悪い予後と、成人期には、犯罪的行動や物質関連障害群の危険が高いことを予測するという。また、危険要因として、平均以下の知的能力、親の拒絶や親の犯罪歴などが挙げられている。

【No. 8】 A. バンデューラによって示された心理学的概念に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 彼は、学習は他人の行動とその結果を観察することのみによっても成立するという観察学習の概念を展開した。保育園児を対象に大人の攻撃行動を観察させる実験を行った結果、観察学習による学習の成立には、観察対象であるモデルが報酬を得る場面を目撃する必要があること、また、モデルが罰せられる場面を見ると学習が成立しないことを明らかにした。
2. 彼は、ある行動がある結果を導くと予期する「結果期待(outcome expectation)」と、その結果を得るのに必要な行動を遂行できると予期する「効力期待(efficacy expectation)」の2種の期待を区別し、どちらか片方でも強く認知した場合、その個人は自己効力感が高いとみなした。また、彼は、小学生を対象とした算数の学習に関する実験において、身近で小さな目標を設定した群よりも、遠い未来の大きな目標を設定した群の方が、自己効力感が高まることを示した。
3. 彼は、自身の理論において、人間の行動は、認知や信念といった個人の要因や環境の要因から一方的に影響を受けて決定されるのではなく、個人、環境、行動の三つの要因が相互に影響し合って、互いの決定因になるという相互決定主義を主張した。また、人間の行動を決定する要因として、先行要因、結果要因、認知的要因を挙げ、これらの要因が有機的に関連をもちながら、個人、環境、行動の3項の相互作用が形成されるとした。
4. 彼は、自己効力感、主要な三つの情報源を通じて高められるとし、遂行行動の達成、言語的説得、生理的喚起を挙げた。このうち、信頼する他者から励ましや説得等を受ける言語的説得が、自己効力感を高める上で最も効果的な情報源とされる。また、他者の成功や努力を目にする代理的経験は、むしろ劣等感を刺激し、自己効力感の低下につながるため、自己効力感を高める情報源には含めなかった。
5. 彼は、セルフ・レギュレーション(自己制御/自己調整)行動の下位過程として、注意、自己観察、判断、動機づけの四つを示した。これらには円環的な関係性がある。例えば、判断過程は、先行する注意過程と自己観察過程の影響を受けるが、動機づけ過程でのフィードバックを経て、注意過程と自己観察過程に影響を与えるという。ただし、彼は動機づけにおける報酬を重視したため、負の自己評価や自罰的な反応はセルフ・レギュレーション行動に含めなかった。

【No. 9】 愛着(アタッチメント)に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. ICD-10 によれば、小児期の反応性愛着障害は、2歳頃まではしがみつくと誰にでもべったりとくっつく、無選択的に集中する愛着行動を示す。4歳まで相手かまわずの愛着行動は残るが、しがみつきの行動は、注意を引こうとする、無分別に親しげな行動にとってかわる。そうした行動は、周囲の環境が著しく変化すれば、持続することはほとんどない。
2. DSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル)における、反応性愛着障害の診断要件に、社会的ネグレクト、すなわち小児期の適切な養育の欠如は含まれていない。しかし、この障害は、重度のネグレクトを受け、その後に養護施設に入れられ、そこで育った子どもの60%以上に生じるなど、臨床場面では頻繁に認められることが指摘されている。
3. 成人愛着面接により愛着軽視型に分類されるものは、愛着そのものに価値を置いておらず、しばしば自分の子どものときを正確に思い出すことができないとされる。また、具体的なエピソードと結び付かないか、矛盾するような、過度に理想化された親子関係の叙述があり、外傷的な出来事の既往や否定的な感情は防衛的に排除されている。
4. ストレンジ・シチュエーション法によりアンビバレント型に分類されるものは、養育者が部屋から出るときには反抗したり泣いたりしない一方、養育者が戻ったときにはだっこを求め、だっこをすると嫌がるといった矛盾した行動を示すとされる。その養育者の特徴として、情緒反応に乏しく、子どもとの身体的な接触到嫌悪感をもっていることが挙げられる。
5. 乳児の気質が、愛着の形成に大きく影響することが報告されている。例えば、気難しい気質をもった乳児100名を対象とした研究(van den Boom, D., 1994)では、母親の感受性を高めるように計画された介入と、12か月時点での愛着分類との間に有意な関連性はほとんど認められず、生まれもった乳児の気質が愛着のパターンに決定的な影響を与えることが明らかとなった。

【No. 10】 中年期以降の発達や心理的・社会的特徴に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. C. G. ユングは、中年期を「人生の正午」と呼んだ。「人生の午前」である人生前半期の発達は、抑圧している欲求や自分自身の本来の姿を見だし、それを実現していくことに方向付けられている。また、「人生の午後」である人生後半期の発達は、職業を得て、社会に根付くこと、配偶者選択、子どもの出産・育児などの外向きの自己確立によって達成されていくとした。こうしたプロセスを没個性化と呼んだ。
2. D. J. レヴィンソンは、人生を四季にたとえる理論を提唱し、成人期には、生活パターンが安定している時期と変化する時期が交互に存在し、それらの橋渡しをする重要な過渡期があるという。特に、50代半ばに経験する「人生半ばの過渡期」を人生の最も重要な転換期であると考え、自我同一性の危機や確立への取り組み方に着目し、同一性地位を同一性拡散、早期完了、モラトリアム、同一性達成の四つに分類した。
3. E. キューブラー＝ロスは、死に関する研究の系統的レビューから、死を予期した患者の悲哀の仕事には、5段階があることを示した。すなわち、自分の体に起きたことを理解できないショック段階、死を予期するがそれを否認し隔離する否認段階、回復できないものかとの思いが強くなる回復への期待段階、死を受け入れるための取引を試みる取引段階、これまでの段階を繰り返しながら最終的に死を受容する受容段階である。
4. 子どもが自立して手を離れる時期に、養育者が経験する心身の不適応状態を、離人感・現実感消失症という。特に子育てに専念してきた母親に生じやすく、生きがい感の喪失や人生に対する後悔、孤独感、抑うつ感、無気力感、頭痛、めまいなど、心身に不安定な状態が起きることを指す。夫婦関係が良好な場合や、仕事や趣味などが充実している場合でも多くの人に不適応が生じるとされる。
5. P. B. バルテスらは、心理学的なサクセスフル・エイジングを説明するSOC理論を提唱した。すなわち、年をとることによる喪失や機能低下に際して、自身の資源が有限であることを自覚し、若い頃よりも狭い領域を探索し特定の目標に絞ること、機能低下を補う手段や方法を獲得して喪失を補うこと、狭い領域や特定の目標に最適な方略をとり適応の機会を増やすことにより、高齢者は資源の減少に主体的に対処し得るという考えである。

【No. 11】 他者からの援助やサポートに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. B. ラタネとJ. M. ダーリー(Latané, B. & Darley, J. M., 1968)は、周囲に多くの人がいる場合に援助が抑制される現象について、傍観者が多数いたために介入行動が抑制されたと考え、これを傍観者効果と呼んだ。そして、この効果を規定する主要因として、フォールス・コンセンサスと責任の分散を指摘した。このうち、援助事態における責任の分散とは、他の大勢が助けていないことを参照し、助けないことが適切であると思込んでしまう現象である。
2. ソーシャル・サポートによるストレス軽減効果については、間接効果モデルと緩衝効果モデルとがある。間接効果モデルは、個人の経験するストレスの程度にかかわらず、ソーシャル・サポートがストレス反応を緩和すると考える。一方、緩衝効果モデルでは、ストレスの程度に応じてサポートの効果が異なり、困難が相対的に小さいときにはサポートは有効であるが、困難が大きくなるにつれてサポートは効果がなくなると考える。
3. ソーシャル・サポートは、どのようなサポート機能が授受されるかという観点から、典型的には問題焦点型と情動焦点型の二つのサポートに区分される。問題焦点型とは、直接的若しくは間接的にストレスの解決に貢献するようなサポートのことである。情動焦点型とは、慰めや気晴らしによってストレスを和らげるようなサポートである。この区分は、R. S. ラザラスのストレス理論における道具的と情緒的というコーピングの分類に対応していると考えられる。
4. 進化心理学の観点から、援助行動は短期的にはコスト負担を伴うが、長期的には適応に繋がる行動とみなされ得る。また、不特定の対人関係においても利他行動が促進されるメカニズムについては、評判を介しての間接互惠性によって説明可能である。例えば、ある人物Aが別の人物Bに利他的に振る舞うと、それを目撃した第三者によって、Aの評判が高まり、Aはその評判を知った他者から利他行動を受けられるようになる。
5. 援助やサポートは、その受け手に望ましい効果をもたらすことが一貫して示されてきた。J. D. フィッシャーら(Fisher, J. D. et al., 1982)によれば、期待以上の援助やサポートは、その受け手にとって喜ばしいことであり、状況によらず、自尊心の向上をもたらすという。援助が受け手の期待を上回ることが重要であり、援助が受け手の期待よりも少ない場合には不満が生じ、プラスの効果は得られにくいとされる。

【No. 12】 社会や集団に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 成員の言動を統制しようとする斉一性の圧力は、集団凝集性が低い集団ほど強くなるとされる。M. シェリフは、7人一組の集団に対して、視覚実験と称して三つの比較線分の中から先に示された標準線分と同じ長さのものを選ぶという課題を与えて実験を行い、斉一性の圧力の存在を確認するとともに、集団規範が生成されるプロセスを明らかにした。
2. M. ドイツと H. B. ジェラードによれば、同調は二つの影響から生じるという。一つは他者や集団からの承認や称賛を求め、制裁を避けたいとの動機に基づいて集団規範に合致した行動を取ろうとする規範的影響であり、もう一つは、他者の意見や判断を受け入れ、より適切な判断や行動を取ろうとする情報的影響である。
3. E. ノエル＝ノイマンは、人は社会的孤立をおそれるがゆえに、自らの意見が少数派であった場合、仲間を探すために積極的に意見を表明すると考えた。また、積極的に表明される意見ほどメディアが広く知らせるため、少数派の意見が多数派の意見よりも優勢に見え、多数派は意見を表明しにくくなり、最終的には、少数派の意見が世論を形成するという理論を提唱した。
4. 社会的影響過程の研究においては、少数派のネガティブな側面が強調されてきた。S. モスコヴィッシは、こうした従来の同調に関する研究を踏襲し、集団圧力によって信念や行動が変容する同調の一つである服従について、通称アイヒマン実験を行った。この実験では、多数の権威者の指示に従って、少数の実験参加者が電気ショックを他者に与えようとするかを観察した。
5. H. C. ケルマンは、同調について、追従、内在化、同一化の三つのタイプの社会的影響を仮定した。影響源が賞罰によって個人をコントロールする手段をもつとき追従が生じ、影響源と個人との関係が魅力的でありかつ満足できるものであれば内在化が起これり、影響源に信ぴょう性がありかつ当該事象が個人の価値体系に合えば同一化が起これるとした。

【No. 13】 神経心理学検査に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. WAB 失語症検査は、聴く、話す、読む、書く、計算の 5 大項目から成り、それぞれに下位項目がある。評価は 6 段階評価が採用されており、失語症症状を詳細に把握できるが、非言語性検査はなく、その他の認知機能を評価することはできない。
2. ストループテストは、側頭葉の注意や干渉の抑制機能を測定するためのものである。赤、青、緑、黄の色名单語がその色名とは違うインクの色で印刷されており、インクの色を答えないようにして色名单語を音読させる。また、インクの色を読んでもうエラーや反応までに時間が掛かることをサイモン効果と呼ぶ。
3. WMS-R は、ウェクスラー式の記憶検査であり、言語性記憶、視空間性記憶、展望記憶、注意／集中、見当識の五つの項目について指標が得られる。指標の平均値は 100、標準偏差は 15 である。対象年齢は 16 歳から 90 歳までであり、75 歳以上の高齢者を対象に含む数少ない検査である。
4. BADS は、実際の行動について自ら目標を設定し、計画を立て、効果的に行う能力である遂行機能を評価する方法である。下位検査は日常生活上でしばしば体験するような場面に類似した内容で構成されており、時間判断検査、鍵探し検査、動物園地図検査など六つがある。
5. CAT (Clinical Assessment for Attention) は、子どもの脳損傷者にしばしば認められる注意機能の障害を臨床的かつ定量的に評価することを目的に開発された。CAT の下位検査は、数唱と視覚性スパン、抹消・検出検査、記憶更新検査などの五つであるが、注意障害は日常生活に表れにくいいため、日常生活の問題を予測することは重視されていない。

【No. 14】 尺度の信頼性に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 再検査法は、同一の集団に同一の尺度を時間間隔をおいて回答させ、その間の相関係数を求めるものである。また、例えば同じ集団に対して同じ尺度を2回実施する場合、1回目の回答の記憶が2回目の回答に影響することがあるという欠点が指摘されている。
- B. 平行検査法は、一つの尺度の項目を半分に分けて実施し、その間の相関係数から信頼性係数を推定するものである。平行検査法は、項目の分け方が異なると、信頼性係数が異なることが指摘される。クロンバックの α 係数を用いた場合、その信頼性係数は、再検査法によって測定される信頼性係数と等しい。
- C. 内的整合性は、尺度の項目全体が、同一の構成概念を測定しているかの程度である。時間的な安定も踏まえて、内的整合性の指標を計算するには、測定した尺度の項目について、可能な全てのパターンの組合せで信頼性係数の推定を行い、それらの平均値を算出するスピアマン-ブラウンの公式が用いられる。
- D. 信頼性の高い尺度は、測定の精度が高く、誤差が少ないことを意味し、信頼性の高い尺度は、妥当性も高い。古典的テスト理論に基づく信頼性係数は、測定値の得点の分散を真の得点の分散で除したものになる。

- 1. A
- 2. B
- 3. A, C
- 4. B, D
- 5. C, D

【No. 15】 次は認知行動療法(CBT)に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

In the first generation of behavior therapy it was possible to keep both of its founding commitments because traditional behavior therapists drew on a large set of basic principles drawn from the basic behavioral laboratories. Even in the earliest days, however, authors of behavioral principles texts realized that these principles needed to expand beyond and classical conditioning principles to include those focused on human cognitive processes (Bandura, 1968). Clinicians realized that as well, and this insight was at the core of the second generation of traditional cognitive therapy and CBT (e.g., Beck, Rush, Shaw, & Emery, 1979).

《中 略》

When CBT emerged, the dominant cognitive models largely were (and remain) either mechanistic information processing approaches or organismic cognitive developmental approaches. For philosophical reasons, both are more focused on the nature and evolution of cognitive acts and their impact on other forms of action than they are on the specific contextual events that regulate these psychological events and relate them one to the other. This feature tends to limit the direct applied relevance of the basic concepts that result (Hayes & Brownstein, 1986). Let us explain.

A principle like reinforcement is focused on the interface between action and its manipulable , in effect, unifying both dependent and independent variables into a single unit. When the clinician applies such a concept to change behavior (we will use the term “behavior” in this paper as it is used in behavior analysis, that is, as a term for all forms of psychological activity, both public and private, including cognition), the variables specified by the term can be manipulated and the effect noted.

This is not, in the main, true of the cognitive concepts generated by information processing and developmental cognitive perspectives. A concept like cognitive schemas (Piaget, 1964) is focused on the organization of a specific kind of variable (cognition) but it does not itself specify the contextual events that alter this variable or regulate its impact on other forms of activity.

	A	B	C	D
1.	operant	content	dependent	dependent
2.	operant	context	dependent	independent
3.	operant	context	independent	dependent
4.	respondent	content	independent	dependent
5.	respondent	content	dependent	independent

koumujin-saiyo.jp

【No. 16】 家族療法に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. S. ミニューチンに代表される構造派家族療法は、家族の構造を捉えるためにジェノグラムを用いるところに特徴がある。家族を親や子などのサブシステムに分けて捉えるなど、家族を捉える際には、家族のサブシステムの輪郭である「境界」や、家族メンバーの結び付きの在り方である「権力」という視点を重要視する。技法としては、いずれのサブシステムにも所属できていない家族メンバーが、サブシステムに参加できるよう促すというジョイニングが代表的である。
2. H. ウィークランドやP. ワツラウィックに代表される解決志向アプローチは、クライアントやその家族が既に解決されたと思いついでいる問題の「偽解決」の過程について詳しく傾聴し、それに介入することで、真の解決に導いていくところに特徴がある。技法としては、悪循環の一端を担っている問題行動を維持するような逆説的な指示を与え、ネガティブな事実をポジティブな事実を書き換えるリフレーミングが代表的である。
3. T. アンデルセンに代表されるリフレクティング・プロセスは、クライアント、セラピスト、チームでメンバーが構成され、クライアントとセラピストの面接について、チームが話し合っているところを、クライアントとセラピストが観察するという点に特徴がある。理論的な背景には、G. ベイトソンの「差異」の概念があり、T. アンデルセンは、差異によって、行き詰まったシステムに変化をもたらされると考えた。
4. S. ド・シェイザーやI. K. バーグに代表されるコミュニケーション派家族療法は、家族のコミュニケーションに焦点を当て、問題が維持される原因をミラクル・クエスチョンを用いて聴いていくところに特徴がある。介入過程では、セラピストが無知の姿勢で問いかけることにより、クライアントとセラピストの間のコミュニケーションのパターンに変化を生じさせ、例外を導く逆説的介入が用いられる。
5. 家族療法の背景理論の一つとして、F. フロム＝ライヒマンのダブルバインド理論やM. ボーエンの一般システム理論がある。これらの理論を踏まえた、家族を一つのシステムと捉えるアプローチでは、家族の問題は、直線的因果律の連鎖である円環的因果律によって生起し、維持されていると考える。問題の根本的な原因であり、家族システムの病理を代表して症状や問題を表している家族メンバーであるIPを治療することで、家族システムに変化をもたらそうとする。

【No. 17】 DSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル)における、抑うつ障害群に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 非定型の特徴を伴ううつ病は、気分の反応性が特徴の一つであり、加えて過眠、鉛様の麻痺、有意の体重増加または食欲増加、長期間にわたり対人関係上の拒絶に敏感で、意味のある社会的または職業的障害を引き起こしていることのうち、二つ以上を満たす。拒絶に対する敏感さは、その人が抑うつにあるときにもないときにも生じる。
- B. 周産期発症のうつ病とは、産後 12 週以内に始まった抑うつエピソードのことをいう。妊娠期間は比較的精神的に安定している時期であり、妊娠による睡眠困難や悪阻などの身体症状とは区別しにくく、疫学的にも妊娠期間中は重症精神疾患の入院率は低いとため、妊娠中の抑うつエピソードは含まない。
- C. 月経前不快気分障害は、過去 1 年間のほとんどの月経周期において、著しい感情の不安定性や著しい抑うつ気分などの症状が一つ以上存在し、月経開始前最終週に始まって月経開始数日以内に軽快し始め、月経終了後の週には最小限になるか消失することが診断基準に含まれる。
- D. 季節型うつ病は、抑うつエピソードの発症と 1 年のうち特定の時期との間に規則的な時間的關係があり、多くの場合、春に発症し、夏から秋に寛解する。双極性障害においては、抑うつエピソードの発症には季節型が存在する一方、躁病エピソードまたは軽躁病エピソードの発症には季節型は存在せず、特定の季節と関連することはほとんどない。

- 1. A, B
- 2. A, C
- 3. A, D
- 4. B, D
- 5. C, D

【No. 18】 抗精神病薬と抗うつ薬の副作用に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 抗精神病薬の副作用として、錐体外路症状がある。これには、筋強剛、振戦、無動、歩行障害等を有するパーキンソン病類似症状のほか、斜頸^{けい}、頸部後屈、舌の突出、眼球上転などの特徴的な姿態を示す遅発性ジスキネジア、舌の捻転、突出や舌なめずり、口唇をとがらせしかめ面になるなどのアカシジアなどが含まれる。
2. 抗精神病薬や抗うつ薬の副作用として、発熱と顕著な筋強直、無動、嚥下^{えん}困難がある。また、断薬時に特異的に認められる症状として、頻脈・血圧変動等の自律神経症状、意識障害やけいれんが伴い死に至る場合もあるアクティベーション症候群がある。
3. 三環系や四環系の抗うつ薬の副作用として、抗ヒスタミン作用がある。これにより、口渇、鼻閉、かすみ目、便秘、排尿困難、傾眠等が生じるとされ、三環系よりも四環系の抗うつ薬の方が副作用が強いことが知られる。
4. 抗精神病薬の副作用として、高プロラクチン血症がある。これは、ドーパミン受容体の遮断により、プロラクチンの産生が促進され、女性では無月経や乳汁分泌が生じ、男性でも乳汁分泌や乳腺肥大が生じる。
5. SSRI の副作用として、悪性症候群がある。これは、投与初期に悪心、嘔吐^{おうと}等の消化器症状が多く現れるほか、不安、易刺激性、衝動性、軽躁状態等を示すもので、自殺に至り得る危険性を有する。そのため、SSRI は、若年層への投与は慎重になされている上、パニック症に対しては禁忌とされる。

【No. 19】 次は、推測統計に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

母数を標本から計算された一つの値によって推定することを 推定という。標本サイズをどんなに大きくしても、標本平均は確率的に変動するため、母平均と完全に一致することはほとんどあり得ない。一方、 によって母数を推定する方法を 推定という。 推定を使っても母数が確実にこの範囲に入ることを主張することはできない。なぜなら、確率は低いものの、標本統計量は母数からかけ離れたどんなに極端な値であっても取り得るからである。そのため、 推定では信頼度(degree of confidence)を定める。信頼度とは、 推定をする際に、その範囲に母数が含まれる確率を意味する。そして、ある信頼度の下で示される母数が含まれる のことを、 という。

は「母数の推定値±誤差範囲」で表される。この誤差範囲には が用いられることが多い。 とは標本分布の標準偏差であり、標本統計量が母数の真値から平均的にどのくらい変動するかを表す指標である。平均値の場合、データが近似的に正規分布に従うならば、 を用い、誤差範囲を算出する。

A	B	C	D	E
1. 点	区間	信頼区間	標準誤差	t 分布
2. 点	区間	信頼区間	標本誤差	二項分布
3. 点	区間	信頼係数	標本誤差	t 分布
4. 区間	点	信頼係数	標準誤差	t 分布
5. 区間	点	信頼係数	標本誤差	二項分布

【No. 20】 ある少年院の在院者を対象に、感情の理解を促進することを目的とした新たな心理教育プログラムを実施し、その効果についてランダム化比較試験を用いて検討したい。プログラムの効果検証に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. サンプルサイズが小さすぎると、実質的に意味のない差まで検出してしまうので、事前に適切なサンプルサイズの設計をすることが重要である。その適切なサンプルサイズは、予想される効果量、有意水準、自由度によって計算することができる。
2. 対照群として待機リスト群を用いる場合、待機リスト群に割り振られた在院者は、一定の時期を経た後に介入群と同じ心理教育プログラムを受ける。待機リスト群の利点として、終結直後の介入群と対照群の比較が可能であることと、最終的には両群に等質のサービスを提供することが可能であることが挙げられる。
3. 盲検化とは、在院者たちにどの群に割り振ったかを教えないことである。一方、評定者は、アウトカムの評定を行うに当たって、どの在院者がどの群に割り振られたかをあらかじめ知っておく必要があるため、評定者については盲検化をすることができない。そのため、盲検化では、評定の妥当性を高めることはできない。
4. 対照群に従来のプログラムを実施した場合、この研究は、新たな心理教育プログラムが従来のプログラムよりも感情の理解の促進に優れていることを検証するために実施される試験と捉えることができる。こうした試験は、「非劣性試験」と呼ばれる。非劣性試験における有効性の指標の差の検定は、片側検定ではなく、両側検定を用いる。
5. 今回の効果検証結果とその他の複数の研究結果を統合するための手法にメタ分析がある。個々の研究における介入群及び対照群の指標の分散の差異を標準化した効果量を「Cohen の d 」と呼ぶ。各研究の効果量を視覚的に理解する代表的な方法は、縦軸を p 値、横軸を効果量として、各研究をプロットするファンネルプロット (funnel plot) 法であるとされる。

No. 21～No. 60

(矯正心理専門職区分)

No. 21～No. 60 は**選択問題**です。これらの問題のうちの任意の20題を解答してください。

なお、20題を超えて解答しても、超えた分については採点されません。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

(法務教官区分，保護観察官区分)

No. 21～No. 60 は**必須問題**です。これらの問題について、**全てを解答**してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

Koumuin-saiyo.jp

【No. 21】 脳波や睡眠に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 脳波とは、脳の神経活動に伴う振動的な電気信号であり、周波数の速い波から順に、 θ （シータ）波、 δ （デルタ）波、 α （アルファ）波、 β （ベータ）波、 γ （ガンマ）波がある。覚醒時の脳では、周波数の速い δ 波が他の脳波に比べて優勢に出現している。また、周波数 30 Hz 以上の脳波である θ 波は、記憶や注意などの高次の認知機能に関係しているとされる。
2. α 波は、閉眼安静時などのリラックス状態で優勢に出現する脳波とされており、 α 波を含め、周波数が遅い帯域の脳波を徐波という。 α 波は、入眠期のうとうとした状態で次第に増加して振幅も大きくなり、自覚的に眠りに入った頃に最も増加する。一方、開眼時や刺激が提示された場合には、 α 波の振幅が急激に小さくなる α 波減衰が生じる。
3. 睡眠は段階 1～4 の 4 段階とレム睡眠に分けられる。典型的には、入眠後、段階 1、レム睡眠、段階 2、レム睡眠のように段階 1～4 とレム睡眠を交互に繰り返して、順次深い眠りの段階に移行し、段階 4 まで到達すると、今度は順次浅い眠りに移行して段階 1 に戻るといった睡眠周期をたどる。一周期は約 180 分であり、通常、一晩に 2 回程度、睡眠周期を繰り返すことになる。
4. レム睡眠とは、速い眼球運動(Rapid Eye Movement)を伴う睡眠のことであり、脳波は、入眠時や覚醒時のパターンに近い状態にある。レム睡眠中に起こされた者は、夢を見ていたと報告することが多い。また、レム睡眠時には、発汗、心拍や血圧の変動など、自律神経系が活発な状態になるのに対し、全身の筋緊張は著しく低下する。
5. 夜になると眠くなり、朝になると覚醒するというような 1 日の活動周期を「概日リズム」と呼ぶ。概日リズムは他の生物には見られない人間特有のものである。夜間の交代制勤務等、特別な時間帯に勤務することが原因となって睡眠障害が生じている場合は、DSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル)における、概日リズム睡眠-覚醒障害群の診断からは除外される。

【No. 22】 記憶に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 質問の微妙な言葉遣いは、記憶の想起に影響を与える。E. F. ロフトスらの交通事故の映像を用いた実験(Loftus, E. F. & Palmer, J. C., 1974)では、「激突した(smashed)」と「ぶつかった(hit)」という言葉の違いによる記憶への影響を、事故を起こした車の速度を推定させることなどで検討した。その結果、言葉の違いによって、推定した車の速度が異なることが明らかとなった。
2. おおむね7歳以前の自伝的記憶が想起できないという現象を幼児期健忘という。幼児期健忘は完全な記憶の消失ではなく、特殊性の高い手がかりを与えられれば、鮮明に想起されることがほとんどであり、生後数年の記憶内容の信ぴょう性は高いことが明らかになっている。
3. フラッシュバルブ記憶とは、劇的で強いネガティブな情動を喚起させる出来事を見聞きした場合、当該の出来事が詳細に記憶される現象をいう。これは、長い時間が経過した後も、その出来事が発生した時間帯やその経緯などを正確に報告できる一方で、そのときの自分の状況は記憶に残っていないという特徴を有している。
4. ソースモニタリングとは、想起した事柄の情報源を正しく同定する処理過程である。情報源の記憶は加齢の影響を受けず、高齢者では、記憶した情報の内容は思い出せなくても、いつ、どこで、誰から、どのように情報を入手したかについては想起できることが多い。
5. 人の記憶は操作できることが知られている。E. F. ロフトスらの実験(Loftus, E. F. & Pickrell, J. E., 1995)では、実験参加者に子どもの頃に迷子になったという虚構の出来事を伝えたところ、実験参加者の約75%は偽りの記憶を報告したという。このことから、心理療法等で取り上げられることが多い、幼児期の抑圧された記憶の存在は否定されることとなった。

【No. 23】 自尊感情(self-esteem)に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. W. ジェームズは、自尊感情を「自己評価の感情」と位置付けた。彼は、自己に対する満足や不満足といった自己評価の感情は、当人の態度や表情には現れにくいと考え、客観的に確認できる成功と失敗の数で自尊感情を測定することを試みた。その結果、「自尊感情＝成功の数÷失敗の数」という公式を提唱し、自尊感情を高めるには、失敗の数をできるだけ減らすことが重要であるとした。
2. M. ローゼンバーグは、自尊感情には、自分を「とても良い(very good)」と捉える場合と、「これで良い(good enough)」と捉える場合の二つがあるとした。前者は、他者より優れているという優越性と関連し、後者は、自己受容と関連する。彼は、自尊感情が高いとは、前者を意味するとし、彼の自尊感情尺度には、「私は、周りの人達より有能な人間であると思う。」など、他者への優越性を問う項目が含まれる。
3. 自尊感情には、当人が明確に意識できる顕在的自尊感情と、意識化されない潜在的自尊感情がある。山口らの研究(Yamaguchi, S. et al., 2007)では、日本人の顕在的自尊感情は、アメリカ人や中国人と同等以上であるのに対し、潜在的自尊感情はそれらの国の人に比べて有意に低かった。この結果、日本人の謙遜規範は、無意識下で特に強く働くという考察がなされている。
4. M. R. リアリーらのソシオメータ理論では、自尊感情が、自分と他者との関係をモニターするシステムとして機能すると考える。すなわち、燃料タンク内の残量を示す計器のように、高い自尊感情は他者から受容されているシグナルであり、低い自尊感情は他者から排除される危険性を示すシグナルであるとされる。
5. 自尊感情について、精神的健康や攻撃行動との関連を調べた研究では、自尊感情を高めることが、暴力的傾向や抑うつ感等を低下させる要因となるという因果関係が一貫して示されている。また、A. H. マズローの存在脅威管理理論では、人は、自尊感情が脅かされる出来事に直面した際、自分よりも劣っている他者と自分を比べる下方比較を行い、安心感や幸福感を高めることで、自尊感情を維持しようとするという説明される。

【No. 24】 パーソナリティに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 特性論の代表的な研究者である G. W. オルポートは、調和性と誠実性からパーソナリティを捉えた。この考え方を引き継いで、統計的な因子分析の手法を用いて、特性論をより客観的に精緻化したのが E. シュプリンガーであり、特性を階層化してパーソナリティの構造を示し、16 PF という性格検査を作成した。
2. 神経症傾向は、H. J. アイゼンクによって抽出されたパーソナリティ次元の一つであり、P. T. コスタらが開発した NEO-PI-R の因子の一つでもある。神経症傾向が高い者は、ストレスに遭遇すると、心身両面にわたる症状を経験しやすくなる。これに対し、低い者は、ストレスを経験しても大きく動揺することはなく、同様の症状は経験されにくい。
3. 類型論は、個人の全体像を浮かび上がらせるのに有効であるほか、典型的なパターンだけでなく中間型や移行型を捉えるのに適しているという長所がある。類型論の代表的な理論を提唱した W. H. シェルドンは、患者の病前性格を調べ、一般の人の性格を躁うつ気質、分裂気質、てんかん気質に分類した。
4. C. G. ユングは、リビドーと呼ばれる心的エネルギーが向かう方向によって、主として自己の内界に関心がある内胚葉型と、自己よりも外部の世界に関心がある外胚葉型の 2 類型を区別した。この特性論は、内胚葉型－外胚葉型という次元上に個人を位置付けており、現在でも多くのパーソナリティモデルに取り入れられている。
5. モーズレイ人格目録(MPI)は、J. P. ギルフォードらの検査を基に、矢田部達郎らが独自に作成した投影法検査である。12 の性格特性から作られるプロフィールと、五つの性格の型を統合して、性格特徴を判定する。また、ミネソタ多面人格目録(MMPI)は、E. クレペリンが考案したものを基に、内田勇三郎が発展させた性格検査であり、5 因子モデルに基づいている。

【No. 25】 子どもの発達に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. M. ルイスは、充足、興味、苦痛を原始的感情と仮定した。また、生後6か月頃までに現れる驚き、嫌悪、恐れ、怒り、罪悪感を一次的感情とし、自己意識が発達することで現れる二次的感情と区別した。そして、二次的感情の中でも、誇り、恥、悲しみは自己評価が発達することで生じ、幼児期後期から児童期にかけて分岐するとした。
2. 児童期は、J. ピアジェの認知機能の発達段階における前操作期に相当する。この時期は、対象を別の何かで表す象徴機能が明確になる一方、例えば、水を元のコップと形状の違うコップに移し水面の高さが変わったときに水の量は変わっていないと認識するといった対象の永続性が未獲得であるとされる。
3. E. H. エリクソンの理論によれば、児童期に相当する時期の心理社会的な危機として、「親密性 対 孤立」が設定されている。他の児童との友好的な関わりを通じて、他者との親密性が獲得され、この危機を解決することにより、誠実性を獲得するとされるが、これがうまくいかない場合には、孤立感や社会不適格感を抱くようになる。
4. 相手もっている知識、欲求、信念などを推測し、それに基づいて相手が次にどのような行動をとるのかを予測する力の発達を調べる「ハノイの塔課題」などは、誤信念課題と呼ばれる。誤信念課題において、2歳頃までは正答率が一貫して低い一方、3歳頃には正答率が飛躍的に上がることが示されている。
5. DSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル)によれば、注意欠如・多動症は小児期に発症する。多くの親は幼児期早期に初めて過度の運動活動性を観察するが、ほとんどの場合、注意欠如・多動症は小学校年齢で同定される。また、学業成績の低下や社会的拒絶と関連し、同年代の仲間関係は、しばしばその仲間からの拒絶、無視、またはいじめによって崩壊する。

【No. 26】 性の発達に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 受精卵が子宮に着床してから出生までの時期を出生前期と呼び、性別の分化はこの時期から始まる。受精時の性染色体の組合せが、XXであれば男性、XYであれば女性となる。男性の精巣や女性の卵巣の基になる性腺原基は、胎生6週頃までに男女で構造に区別ができ、Y染色体上の遺伝子が作用した場合には卵巣になり、そうでなければ精巣になる。
2. L. コールバーグは、J. ピアジェの認知発達の理論を性の概念の発達に援用した。彼によれば、子どもは、まず、自らの性別を理解することができるようになり、次に、男女という区分を一貫したラベルとして使用することができるようになるという。そして、性別が不変の属性であるという「性の恒常性」を認識し、時間が経過しても、場面が変わっても性別は変わらないということを理解する。
3. S. フロイトの心理・性的発達論では、広義の性的エネルギー(リビドー)が向けられる身体部位の変化によって発達段階を分類している。その中で、性器期とは6歳頃から思春期に入る前までを指し、性器への関心が高まる時期とされる。性器期では、異性の親への性的関心の高まりから、同性の親に対して性的な葛藤を抱き、男子では去勢不安やエディプスコンプレックスが生じるとされる。
4. 出生直後から明瞭に見られる生殖腺と生殖器の性差を第一性徴というのに対し、思春期以降に現れる乳房の膨らみや筋肉の発達といった身体特徴の性差を第二性徴という。視床下部から分泌される黄体形成ホルモン(LH)や卵胞刺激ホルモン(FSH)によって精巣や卵巣が刺激されると、例えば、女性では、エストラジオールの産出が抑制され、テストステロンの産出が促進されることで、第二性徴の発現につながる。
5. DSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル)における性別違和は、通常、小児期に始まり、成人期まで持続することから、子どもと成人で診断基準は共通である。また、診断には、その人が体験・表出するジェンダーと出生時に指定されたジェンダーの間の著しい不一致が6か月以上持続している必要があるが、両者の不一致に伴う苦痛や職業又は学校領域における機能の障害が生じている必要はない。

【No. 27】 態度と態度形成に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 態度の測定における自己報告法とは、回答者に自分自身の考えを報告してもらう手法であり、リッカート法やIATなどを用いた項目群で特定の対象に対する態度を測定する。自己報告法では回答者が自覚できていない態度も測定することができるが、社会的に表明することが望ましくない態度については回答がゆがむおそれがある。潜在的態度の指標であるサーストン法を用いることによって、人種的偏見のような質問紙では測定しづらい態度について検討することもできる。
2. R. T. ラピエール(LaPiere, R. T., 1934)は、米国で東洋人に対する偏見が強かった時代に、中国人夫婦と一緒に国内を旅行した。その旅行中に訪れたホテルやレストラン 251 か所のうち、200 か所以上でサービスを断られた。その後、それらの施設に中国人の客にサービスを提供するか問い合わせたところ、返事があった 128 施設のうち 92 % はサービスを断るという回答であった。この結果は、現実の行動と、言語的に示される態度とが比較的一貫することを示している。
3. 態度の3成分説では、態度を認知、感情、再評価の3成分に区別する。認知成分は特定の対象についての信念に関係し、主に真偽や「賛成」、「反対」に関わる評価である。感情成分は、特定の対象についての好き嫌いという感情である。再評価成分は、特定の対象について改めて考え直す、対象への熟慮である。この結果として、対象に近づこうとする「接近」と対象から遠ざかろうとする「回避」のいずれかにつながる。
4. 態度は、古典的条件づけによっては形成されない。例えば、A. W. スターツと C. K. スターツの研究(Staats, A. W. & Staats, C. K., 1958)では、ある態度対象に対してポジティブな意味合いをもつ言葉を対提示されたとしても、態度のような複雑な概念では変化が生じないことが示され、それはネガティブな態度でも同様であった。一方、道具的条件づけや観察学習による態度形成は、ポジティブ・ネガティブ問わず起こり得ることが知られている。
5. L. フェスティンガー(Festinger, L., 1957)が提唱した認知的不協和理論では、認知間の不協和の存在は心理的に不快であるため、その不協和を低減又は回避するように動機づけられるという。例えば、自らはタバコを吸っているが、タバコが健康に悪いと考えている人は、タバコを吸うのを止めるか、タバコは健康に悪くないと考えるといった方法で不協和を低減し、また、タバコは精神的に良いといった論説を積極的に信じることもある。

【No. 28】 次は、集団心理療法に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

集団心理療法とは、集団精神療法と呼ばれることもあり、集団内の人間関係や相互作用を通して、問題や悩みをもつ複数の対象者に対して、心理的に援助を行うことである。

集団心理療法の種類は多種多様である。A グループは、C. R. ロジャーズが発展させたクライエント中心療法の理論を背景に、メンバー同士の対等な関係の中で、自分に気づくことを通して、自己実現を目指すものである。セラピストはリーダーではなく、メンバー自らが変わろうとするのを助ける B とみなされる。B がグループで何をするのかを決めるのではなく、グループとしての安全感・信頼感の醸成をベースとし、各メンバーの自発的な動きに任せ、「語る・聴く」というやりとりを積み重ねながら展開していく。

力動的集団精神療法では、メンバーは自分の問題を中心に、仲間のサポートを得ながら自己開示し、メンバー同士で感じたことや連想したことを話す。用いられる介入方法の一つに、C がある。C とは、現在の治療セッション中の出来事、すなわち、現在、ここで生じている現象に焦点化された介入である。グループでの体験過程を通して、対人関係上のゆがみに気づくことで健康な自己の回復と成長がもたらされる。

I. D. ヤーロムによると、グループの D は、集団心理療法における重要な治療因子であり、各メンバーがグループに受け入れられることによる意義深い自己開示を促し、相互の援助能力を高めるなどの効果があるとされた。

	A	B	C	D
1.	エンカウンター	ファシリテーター	フォーカシング	実体性
2.	エンカウンター	ファシリテーター	「今、ここで(here and now)」の介入	凝集性
3.	エンカウンター	トレーナー	「今、ここで(here and now)」の介入	凝集性
4.	T	トレーナー	フォーカシング	実体性
5.	T	トレーナー	「今、ここで(here and now)」の介入	凝集性

【No. 29】 PTSD(心的外傷後ストレス障害)に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. DSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル)によれば、PTSDを生じる心的外傷的出来事への暴露とは、実際にまたは危うく死ぬ、重傷を負う、性的暴力を受ける出来事について、自分自身が直接体験するまたは他人が体験するのを直に目撃することである。そのため、家族や友人に起こったそのような出来事を耳にすることや、職務上そのような出来事の不快な部分に繰り返し暴露されることは除外される。
2. DSM-5によれば、侵入症状とは、心的外傷的出来事が再び起こっているように感じることを指し、子どもの場合に起こる、遊びの中での心的外傷に関連した出来事の再演は、侵入症状から除外されている。また、心的外傷的出来事の側面を象徴する出来事またはそれに類似する引き金となる出来事に暴露されたときに起こる生理学的反応は、心的外傷的出来事に関連する刺激の持続的回避に含まれる。
3. DSM-5によれば、心的外傷的出来事に関連した認知や気分の陰性変化とは、心的外傷的出来事の重要な側面の想起不能や、重要な活動への関心または参加の著しい減退などである。また、私が悪いや誰も信用できないといった「自分自身や他者、世界に対する持続的で過剰に否定的な信念や予想」や「他者から孤立している、または疎遠になっている感覚」も含まれる。
4. DSM-5によれば、PTSDの診断には、心的外傷的出来事に暴露された後に、侵入症状、陰性気分、解離症状、回避症状、過覚醒症状などが3日から3か月持続する急性ストレス障害の診断を経ていることが必要である。また、物質使用障害の診断基準も満たす場合は、PTSDの診断はせずに、物質使用障害の治療を優先させるべきとされる。
5. PTSDと診断された者に対して行う、初期の治療をサイコロジカル・ファーストエイドと呼ぶ。そのうち、心的外傷的出来事に関連して見聞きした詳細や現在の心身の状態をグループで分かち合うディブリーフィングがPTSDの治療法として特に有効であるとされ、これを暴露体験からなるべく早い段階で行い、その後に心理教育を行った場合の治療効果が高いことが示されている。

【No. 30】 次は、実験計画の説明と具体例である。説明を踏まえ、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

○説明

実験計画において、測定したい量的変数に影響する質的変数は、「要因」と呼ばれる。例えば、要因が一つの場合は1要因、二つの場合は2要因と呼ぶ。また、要因を構成する条件のことは「水準」と呼ぶ。

実験計画において、ある実験参加者を要因の一つの水準にのみ割り当てる計画を「被験者間計画」と呼び、ある実験参加者を要因の全ての水準に割り当てる計画を「被験者内計画」と呼ぶ。また、被験者間計画と被験者内計画がどちらも含まれる実験計画は「混合計画」と呼ぶ。

○具体例

A 計画：学習で使用するテキストによって、学生の英語の学力に差が生じるか調査する。英語のテキストを4種類用意し、無作為に選び出した大学1年生に、4種類のいずれかをランダムに配布する。そのテキストを用いて1週間学習させた後、英語のテストを実施し、使用したテキストによって、テストの得点に差があるかを調べる計画を立てた。

B 計画：ミュラー・リヤー錯視の錯視量に関する調査を行う。調査では、水平線分に矢羽が付いている図形について、その矢羽の角度がそれぞれ異なる4種類の図(標準刺激)を使用する。実験参加者に、4種類ある標準刺激のいずれか一つと水平線分のみ(比較刺激)を同時に提示し、標準刺激と同じ長さになるように比較刺激の水平線分の長さを調節させた後、二つの線分の長さの差を測定する。この手続を、実験参加者全員に、4種類全ての標準刺激について行わせ、矢羽の角度によって、二つの線分の長さの差に違いがあるかを調べる計画を立てた。

C 計画：清涼飲料水のテイasting調査を行う。3種類の清涼飲料水を用意し、それぞれについて冷蔵した物と常温の物の二つの条件を用意する。実験参加者を冷蔵条件と常温条件に分け、冷蔵条件では、各参加者が冷蔵の清涼飲料水3種類を全て試飲し、常温条件では、各参加者が常温の清涼飲料水3種類を全て試飲する。3種類のおいしさをそれぞれ1～5点で評定させ、飲料水の温度と種類によって、評定に差があるかを調べる計画を立てた。

D 計画：室内の環境と作業効率の関係を調査する。明るくて狭い部屋、明るくて広い部屋、暗くて狭い部屋、暗くて広い部屋の四つの実験室を用意する。実験参加者全員に、全ての実験室で単純な計算問題に取り組んでもらい、室内の明暗と面積によって、計算問題の遂行時間に差があるかを調べる計画を立てた。

	A	B	C	D
1.	1 要因被験者間	1 要因被験者内	2 要因混合	2 要因被験者内
2.	1 要因被験者間	1 要因被験者内	2 要因被験者内	2 要因混合
3.	1 要因被験者内	1 要因被験者間	2 要因被験者間	2 要因被験者内
4.	4 要因被験者間	4 要因被験者内	5 要因被験者内	4 要因混合
5.	4 要因被験者内	4 要因被験者間	5 要因混合	4 要因被験者間

koumuin-saiyo.jp

【No. 31】 F. フレーベルに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 『エミール』を著し、子供には自然の歩みに従った教育が必要であるとする消極教育論を展開した。また、子供は大人とは違った存在であり、子供には子供固有の感じ方、考え方があると主張したことから「子供の発見者」と呼ばれた。
2. 『人間の教育』を著し、人間の教育は自己の内面を表現できる幼児期に始まるとし、幼児期の遊びや作業の原理を表す道具としての「恩物」を考案した。そして、その指導法の普及を行うとともに、世界で最初の幼稚園を創設した。
3. 『教育の過程』を著し、「どの教科でも、知的性格をそのままに保って、発達の中の段階の中のどの子供にでも効果的に教授することができる。」という仮説を展開した。また、教師が答えを教えるのではなく、学習者が自ら答えを発見していくことを重視した「発見学習」を提唱した。
4. 『労作学校概念』を著し、子供は労働や作業を通して、社会生活を送るにふさわしい精神的状態を獲得し、自らの振る舞いを整えることができるような力を身に付けるべきだとし、「労作教育」を提唱した。
5. 新人文主義者の一人として一般的人間陶冶論を唱え、「基礎学校、古典語学校ないしギムナジウム、大学」という主に年齢を基準として段階的に構成された単線型学校制度を構想した。また、プロイセン公教育局長としてベルリン大学の設置を指導した。

【No. 32】 学制に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 欧米の教育制度を参考にした我が国初の近代的公教育制度を規定した法令である。この教育理念は、序文(前文)に示されており、個人主義、実学主義、国民皆学が強調された。
- B. 天皇から文部大臣に下賜され、公布されたもので、臣民が守るべき徳目が列挙され、それらが普遍的な真理であることが強調された。また、小学校及び師範学校の教育に特に大きな影響を与え、中でも修身教育において影響が顕著であった。
- C. 教育行政組織について定めており、学校制度を実施するための機構として学区制を採用し、全国を8大学区、各大学区を32中学区、各中学区を210小学区に分けた。それらの各学区は教育行政の単位でもあった。
- D. 教育の目的について、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」とされた。

- 1. A, C
- 2. A, D
- 3. B, C
- 4. B, D
- 5. C, D

【No. 33】 次は、「高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)」及び「高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 公民編」で示された「公共」に関する記述であるが、A、B、Cに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

- 「公共」は、人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な としての資質・能力を育成することを目標としている。
- 「公共」の履修については、 とし、原則として入学年次及びその次の年次の 2 か年のうちに実施するとした。また、標準単位数については、「公共」、「倫理」及び「政治・経済」は、いずれも 2 単位とした。
- 「公共」の内容は、「公共の扉」、「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」、「 の主体となる私たち」の三つから構成された。

A	B	C
1. 公民	選択履修	ユニバーサルな社会づくり
2. 公民	必履修	持続可能な社会づくり
3. 公民	必履修	ユニバーサルな社会づくり
4. 専門職	選択履修	持続可能な社会づくり
5. 専門職	選択履修	ユニバーサルな社会づくり

【No. 34】 B. バーンステインに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 学校での教育を通して、暗黙のうちに、特定の文化的価値や人種・性・階級などの差別が、生徒に伝達されることを「隠れたカリキュラム」と指し、特に生徒の性別によって教師が対応に差をつけることで、女子生徒の進路選択の幅が狭められていることを明らかにした。
2. 生徒の興味や希望進路に応じて教育課程を編成し、生徒を同質的にグループ分けすることを「トラッキング」というが、それは実際には、競争的選抜と教育的不平等の基盤になっており、社会的地位達成機会が学歴によって左右されているというトラッキング理論を提唱した。
3. 経済資本と社会関係資本に加えて「文化資本」の概念を考案し、それが出身家庭から相続継承されて教育に投資されることで、階級・階層構造に根ざした教育システムの文化的再生産が生じる過程を理論化した。
4. 貴族による支配や富豪による支配になぞらえて、IQなどの能力が高い者による支配を「メリトクラシー」と表現した。そして、社会的地位の配分原理が属性原理から業績原理に移行することでメリトクラシー社会が生まれると論じた。
5. 「精密コード」と「限定コード」という言語コードの概念を基に、労働者階級出身の子供は学校で求められる精密コードを十分に身に付けていないために、学校での優れた成績を得ることが困難となると論じた。

【No. 35】 次は、STEAM 教育に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

統合型のSTEM教育には、，Technology, Engineering, MathematicsのSTEM分野が複雑に関係する現代社会の問題を、各教科・領域固有の知識や考え方を統合的に働かせて解決する学習としての共通性を持ちつつ、その目的として① ・技術分野の経済的成長や革新・創造に特化した人材育成を志向するものと、②全ての児童生徒に対する の育成を志向するものがある。

これに加え、近年は、現実社会の問題を創造的に解決する学習を進める上で、あらゆる問いを立てるために、Liberal Arts(A)の考え方に基づいて、自由に考えるための手段を含む美術、音楽、文学、歴史に関わる学習などを取り入れるなどSTEM教育を 推進していく教育としてSTEAM教育が提唱されており、その実現のためには を充実する必要があるとされている。

A	B	C	D	E
1. Society	社会	日本国民としてのエンパシー	深く縦断的に	道徳教育
2. Society	社会	市民としてのリテラシー	深く縦断的に	カリキュラム・マネジメント
3. Science	科学	日本国民としてのエンパシー	広く横断的に	道徳教育
4. Science	科学	市民としてのリテラシー	広く横断的に	カリキュラム・マネジメント
5. Science	科学	日本国民としてのエンパシー	深く縦断的に	カリキュラム・マネジメント

【No. 36】 我が国におけるキャリア教育に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. キャリア教育とは、技術習得をはじめ職業人として必要な知識・技術・教養を身に付けるために学校に再入学して行うものである。専門的な知識・技能の育成は、学校教育で完成するものであり、特定の活動や指導方法に限定される。
- B. キャリア教育には、「基礎的・汎用的能力」を、確実に育成していくことが求められている。この「基礎的・汎用的能力」の具体的内容は、「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の四つの能力に整理される。
- C. キャリア・パスポートとは、キャリア教育に関わる諸活動について、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。
- D. 高等学校においては、進路の探索・選択に係る基盤形成の時期として、日常的な様々な「役割」遂行の経験を積み重ねながら、計画的・系統的に「自己の生き方」について考えることができるようにすることが重要であるとされる。また、公立高等学校においては、職場見学への参加が必須とされている。

- 1. A, B
- 2. A, D
- 3. B, C
- 4. B, D
- 5. C, D

【No. 37】 スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. スクールカウンセラーの主な職務は、「健康診断の立案」、「保健室の運営」、「警備・見守り活動」、「児童生徒に対する相談・助言」、「保護者や教職員に対するカウンセリング、コンサルテーション」、「校内会議等への参加」、「教職員や児童生徒への研修や講話」である。
2. スクールソーシャルワーカーの主な職務は、「問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働き掛け」、「関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整」、「学校内におけるチーム体制の構築、支援」、「保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供」、「教職員等への研修活動」である。
3. スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーは、専門的な知識と技能を求められるため、いずれも臨床心理士及び社会福祉士という二つの国家資格を有することとされている。それらの資格の有効性を維持するには、10年ごとの更新講習の受講・修了が必要とされている。
4. 課題を抱えた児童生徒に対するアセスメントの妥当性等について助言し、更なる専門的資質の向上を支援するため、校長は、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーのスーパーバイザーを近隣の病院に配置することとされている。
5. 平成13年度にスクールソーシャルワーカー活用事業が開始されて以降、児童生徒が置かれた環境が改善し、対応実績が平成20年度まで減少し続けた。しかし、その後、学校での事件・事故などの問題が多発したことから、教育相談体制を強化する必要があったため、スクールカウンセラー等活用事業が開始された。

【No. 38】 出席停止制度に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 学校教育法によれば、校長は、他の児童生徒に傷害、心身の苦痛又は財産上の損失を与える行為などを一度でも行った児童生徒があるときは、市町村の教育委員会に報告した上で当該児童生徒に対して、出席停止を命ずることができるとされている。
- B. 文部科学省の通知*¹によれば、学校教育法に定める出席停止の制度は、本人に対する懲戒という観点からではなく、学校の秩序を維持し、他の児童生徒の義務教育を受ける権利を保障するという観点から設けられた制度であるとされている。
- C. 文部科学省のガイドライン*²によれば、保護者から新型コロナウイルス感染症への感染が不安で休ませたいと相談のあった児童生徒等については、一定の事情があって、他に手段がない場合など、合理的な理由があると校長が判断する場合には、指導要録上「出席停止・忌引等の日数」として記録し、欠席とはしないなどの柔軟な取扱いも可能であるとされている。
- D. 学校保健安全法によれば、都道府県知事は、感染症にかかっており、かかっている疑いがあり、又はかかるおそれのある児童生徒等があるときは、出席を停止させることができ、その期間においては、児童相談所、警察等の関係機関から成るサポートチームを組織し、児童生徒及び保護者への指導や援助を行うこととされている。

*1 「出席停止制度の運用の在り方について(通知)」

*2 「新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営のためのガイドライン」

(令和3年2月19日改訂版)

1. A, B
2. A, D
3. B, C
4. B, D
5. C, D

【No. 39】 次は、我が国におけるスタートカリキュラムに関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

□ A □ と □ B □ との接続を円滑に進めることは、子供の円滑な学校生活のスタートにつながる。このため、各学校では、従来から、学校や学級生活への円滑な適応に関する指導が行われており、学級活動、学校行事などにおいても、接続を意識した生活や集団、学習への適応指導や集団活動が行われている。

平成 29 年に告示された学習指導要領の中で、入学当初においては、□ A □ における □ C □ を通した総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすることが示され、その際、□ D □ を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすることとされた。

A	B	C	D
1. 幼児期の教育	小学校教育	特別活動	生活科
2. 幼児期の教育	小学校教育	特別活動	総合的な学習の時間
3. 幼児期の教育	小学校教育	遊び	生活科
4. 小学校教育	中学校教育	遊び	総合的な学習の時間
5. 小学校教育	中学校教育	特別活動	総合的な学習の時間

【No. 40】 ブレーン・ストーミングに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 教育目標を系統化し、教授目標を明確化し、授業の進行過程で形成的評価を実施する。そして、その情報が学習者にフィードバックされるとともに、教師の教育活動の反省のために活用され、つまずきのある学習者には回復学習を、習得できた学習者には発展学習を行うというものである。
2. 学習者を幾つかの小グループに分け、それぞれのグループに異なる課題を提示する。各グループで課題が実施されると、今度はその学びを持ち寄り合わせることで、更に大きな課題に対しての解決が可能となるというものである。
3. 教授組織の一形態であり、協力教授組織と訳される。複数の教師がチームを構成し、同一の生徒集団を対象として、指導の全面あるいは重要な部分について共同で責任を負い、協力して指導に当たるものである。
4. 集団の中で様々なアイデアを自由に出し合うもので、代表的な創造的問題解決法である。これは特にアイデアを出す段階や、アイデアの改良、複数のアイデアの組合せを行うときに有効であるとされている。
5. 自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力を育むものである。

【No. 41】 次は、我が国の社会保障制度に関する記述であるが、A～Dの下線部を古いものから順に並べたものとして最も妥当なのはどれか。

- A. 高齢化や核家族化の進行、介護離職問題などを背景に、介護を社会全体で支えることを目的として介護保険制度が創設された。
- B. 高度経済成長に伴い社会保障制度は大幅に拡充され、特に、年金給付額の改善や老人医療費の無料化がなされたこの年は、福祉元年と呼ばれた。
- C. 老人医療費の無料化を見直すため老人保健制度が創設された。また、被用者保険本人の1割負担の導入、基礎年金の創設による年金制度の再編成や給付水準の適正化が実施された。
- D. 旧生活保護法は、GHQの指示を受け制定されたものであるが、憲法第25条に規定される生存権保障の精神が明示されていなかったため、その後、保護受給権を明確にするなど、旧生活保護法の全面的改正が行われた。

- 1. B→A→D→C
- 2. B→C→D→A
- 3. D→A→B→C
- 4. D→B→C→A
- 5. A→B→C→D

【No. 42】 我が国の医療保険制度に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 我が国では国民皆保険は実現していないものの、令和2年度末において、国民の約9割が、国民健康保険又は協会けんぽ(全国健康保険協会が運営する健康保険)に加入している。
2. 健康保険法では、従業員を雇用する全ての事業所を、健康保険が適用される「適用事業所」としている。適用事業所の従業員は、健康保険の被保険者となり、その保険料は当該事業所が全額負担することとなる。
3. 健康保険法は、労働者の安全及び衛生の確保等を図り、もって労働者の福祉の増進に寄与することを目的としている。業務災害又は通勤災害による傷病を負った場合には、同法に基づき、障害補償給付が支給される。
4. 療養の給付(診察や薬剤の支給等)を受ける者は、その費用の一部を負担するものとされている。国民健康保険と協会けんぽとでは、療養の給付の内容及び一部負担の割合が異なっており、一部負担割合は、原則として、国民健康保険は1割、協会けんぽは3割とされている。
5. 高齢者の医療の確保に関する法律では、高齢者を、年齢等により前期高齢者と後期高齢者に分けており、75歳以上の者は、原則として後期高齢者医療制度に加入し、疾病、負傷等に関して必要な給付を受ける仕組みになっている。

【No. 43】 我が国の公的年金制度に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 公的年金の給付には、主に老齢年金、障害年金、遺族年金の3種類があり、それぞれについて国民年金加入者に共通で給付される基礎年金と、厚生年金加入者に対して上乗せして給付される厚生年金がある。
2. 老齢基礎年金について、支給開始年齢は原則70歳であるが、70歳以前から継続して就労している場合は支給されず、退職日の翌月以降支給される。
3. 障害基礎年金について、障害の原因となった傷病の初診日に20歳未満であった者は、障害の状態にあって20歳に達した場合であっても、保険料の支払いをしていないため、支給対象とならない。
4. 障害基礎年金について、障害の原因となった傷病の初診日の属する月までの被保険者期間に保険料未納があった者は、未納分の倍額を追納することにより、年金を受給できる。ただし、年金額は4分の3に減額される。
5. 国民年金の保険料について、生活保護法による生活扶助を受ける者は申請により納付が猶予される。また、学生であって本人所得が一定額以下の場合、申請に基づくことなく全額免除される。

【No. 44】 障害者福祉に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 1990年代、バリアフリー法*は、障害者基本法に名称が改められた。これは、障害者についての基本的な考え方や方針を定めるという改正の趣旨に基づくものであり、従来の社会モデルに代わり、国際障害者年(1981年)の基本理念である医学モデルが取り入れられている。
- B. 障害者基本法において、「障害者」とは、「身体障害、知的障害、発達障害、その他の心身の機能の障害がある者であって、障害者手帳の交付を受けたもの」と規定されている。
- C. 障害者基本計画(第4次)では、障害者が自らの能力を最大限発揮し自己実現できるよう支援するとともに、障害者の活動を制限し、社会への参加を制約している社会的な障壁を除去するため、政府が取り組むべき障害者施策の基本的な方向が定められている。
- D. ICF(国際生活機能分類)には、「生活機能と障害」と「背景因子」という二つの部があり、さらに、「生活機能と障害」は「心身機能・身体構造」と「活動・参加」、「背景因子」は「環境因子」と「個人因子」というそれぞれの構成要素から成る。

* 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律

- 1. A, B
- 2. A, C
- 3. B, C
- 4. B, D
- 5. C, D

【No. 45】 地域福祉に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 社会福祉法は、地域福祉の推進を図ること等により、社会福祉の増進に資することを目的としている。同法に基づき、社会福祉を目的とする事業を営む者は、地域福祉推進に協力しなければならず、拒否した場合には罰金が科せられる。
2. インフォーマル資源とは、行政や専門機関のような公的主体であり、制度や専門性を根拠にするものである。一方、フォーマル資源とは、民間による自発的な動機によるものであり、制度や専門性を主たる根拠としないことに特徴がある。
3. 社会的排除(Social Exclusion)とは、社会の諸活動への参加が阻まれ社会の周縁部に押しやられている状態あるいはその動態を指す。これに対応する考え方として社会的包摂(Social Inclusion)があり、社会参加を促し、保障する諸政策を貫く理念といわれている。
4. 「ニッポン一億総活躍プラン」(平成 28 年)では、地域共生社会を実現するため、地域住民を支え手側と受け手側に明確に区分し、福祉などの地域の公的サービスを利用することなく、住民同士が助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築するとしている。
5. 更生保護事業法の改正により創設された重層的支援体制整備事業は、市町村の支援機関や地域関係者が、子ども、障害、高齢、生活困窮といった、それぞれの分野ごとに独立した支援体制を構築することをコンセプトに、「分野別の相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」の各事業をそれぞれ個別に実施するものである。

【No. 46】 次は、我が国における福祉行政の専門機関に関する記述であるが、A、B、Cに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

福祉事務所とは、社会福祉法に規定される「福祉に関する事務所」をいい、生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法に定める援護、育成又は更生の措置に関する事務を担当する行政機関である。Aに設置の義務があり、Bによる設置は任意である。

また、児童相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所、婦人相談所の都道府県による設置はCであり、全国で、児童相談所は約200か所、身体障害者更生相談所は約80か所、知的障害者更生相談所は約90か所、婦人相談所は約50か所設置されている。

A	B	C
1. 市町村(特別区を含む。)	都道府県	義務
2. 市(特別区を含む。)	都道府県及び町村	任意
3. 町村	都道府県及び市(特別区を含む。)	義務
4. 都道府県及び市(特別区を含む。)	町村	義務
5. 都道府県	市町村(特別区を含む。)	任意

【No. 47】 我が国の低所得者支援に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 生活困窮者自立支援法は、生活保護に至る前の生活困窮者に対する自立の支援に関する措置として、生活扶助、教育扶助、住宅扶助、医療扶助等を規定している。各制度の実施主体は都道府県社会福祉協議会であり、市町村に委託することは認められていない。
2. 民事法律扶助業務は、社会福祉法に定める第二種社会福祉事業の一つである。資力が乏しく、損害賠償金や慰謝料の支払いが困難な者について、日本弁護士連合会がその費用の立替えを行っている。
3. 生活福祉資金貸付制度は、生計困難者に対して資金の貸付けと必要な相談支援を行うものである。対象は、低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯であるが、災害や感染症の影響を受けた世帯に対する特例措置も講じられている。
4. 公営住宅制度は、社会福祉法に定める第一種社会福祉事業の一つである。保健所が保護施設を運営、整備し、これを住宅に困窮する低所得者に対して無料で提供することにより、国民生活の安定と社会福祉の増進に寄与することを目的とするものである。
5. 無料低額診療事業は、第二種社会福祉事業には該当しないものの、社会福祉法に基づき、生計困難者のために、無料又は低額な料金を診療を行う制度である。制度の対象要件として、ひとり親家庭であること及び生活保護費を受給していることが規定されている。

【No. 48】 我が国における児童虐待の現状及びその対策に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 厚生労働省の「福祉行政報告例」によると、全国の児童相談所における児童虐待に関する相談対応件数は、平成2年度以降増加し続けていたが、児童虐待防止法*が施行された平成12年度以降減少に転じ、令和元年度は、平成11年度の6割程度となっている。
2. 児童虐待防止法における「児童虐待」には、保護者がその監護する児童に対し、著しい心理的外傷を与える言動を行うことも含まれており、例えば、児童が同居する家庭において、保護者がその配偶者に対して暴力を振るうなどの行為が含まれる。
3. 児童虐待防止法は、児童虐待を受けたと思われる児童を発見した場合の通告義務について規定しているが、通告が義務付けられているのは、児童福祉施設、学校、医療機関等、児童虐待の兆しや疑いを発見しやすい機関に限られている。
4. 児童福祉法において、児童相談所が児童虐待に係る通告を受けた場合、児童相談所長は、児童虐待の有無を確認するため、親権者等が拒否するときを除き、必ず児童の一時保護を行わなければならないとされている。
5. 児童虐待防止法において、家庭裁判所は、児童虐待が行われているおそれがあると認める場合、あらかじめ親権者等の同意を得られたときに限り、検察官をして、児童の住所又は居所に立ち入り、必要な調査又は質問をさせることができるとされている。

* 児童虐待の防止等に関する法律

【No. 49】 我が国における自殺の現状及びその対策に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 自殺対策基本法は、第1条の目的において、自殺対策に関する基本理念を定めるとともに、国及び地方公共団体等の責務を明らかにしている。また、自殺対策が、自殺の防止を図ることのほか、自殺者の親族等に対する支援の充実を図るものであることを示している。
- B. 自殺対策基本法に基づき策定された自殺総合対策大綱(平成29年)では、自殺は個人の問題であり、自殺の背景には、精神保健上の問題があることを示している。また、重点施策の一つとして、自殺に関する正しい知識を普及したり、自殺の危機を示すサインに気付き、声を掛け、話を聞いたりする「スーパーバイザー」の養成を掲げている。
- C. 警察庁のデータによると、我が国の自殺者数は、平成22年以降連続して増加していたが、令和2年は前年から減少した。特に女性の自殺者数が減少しており、令和2年の自殺者数を年齢階級別・男女別に前年と比較すると、女性は全年代で減少している。
- D. 世界保健機関(WHO)資料(2018年9月)によると、我が国の自殺死亡率(人口10万人当たりの自殺者数)は、G7(日本、フランス、米国、ドイツ、カナダ、英国、イタリア)の中で最も高くなっている。

- 1. A, C
- 2. A, D
- 3. B, C
- 4. B, D
- 5. C, D

【No. 50】 次は、我が国の犯罪被害者支援に関する年表であるが、A、B、Cに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

昭和 49(1974)年	三菱重工ビル爆破事件の発生
昭和 55(1980)年	A
平成 12(2000)年	いわゆる犯罪被害者等保護二法の制定
平成 16(2004)年	犯罪被害者等基本法の成立
平成 17(2005)年	犯罪被害者等基本計画の決定
平成 19(2007)年	B, 仮釈放等審理における被害者等の意見等聴取制度などの創設
平成 30(2018)年	C を対象としたワンストップ支援センターの全国設置完了

A	B	C
1. 犯罪被害給付制度の創設	刑事裁判への被害者参加の制度	性犯罪・性暴力被害者
2. 犯罪被害給付制度の創設	公訴時効の廃止	窃盗被害者
3. 公訴時効の廃止	刑事裁判への被害者参加の制度	窃盗被害者
4. 公訴時効の廃止	犯罪被害給付制度	性犯罪・性暴力被害者
5. 刑事裁判への被害者参加の制度の創設	犯罪被害給付制度	窃盗被害者

【No. 51】 シカゴ学派に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. R. E. パークは、愛着の対象になる集団を外集団、それと対比されて嫌悪や軽蔑、場合によっては敵意の対象になる集団を内集団とした。そして、その内集団に特有の態度を「儀礼的無関心」と呼んだ。
2. E. W. バージェスは、都市の拡大過程の形態を理念的に捉え、都市の空間的な構造を明らかにした。そして、中央ビジネス地区から、都市が同心円状に成長・発展していくという「同心円地帯理論」を提唱した。
3. L. ワースは、都市＝農村二分法を提唱し、都市と農村を一定の尺度上に位置付けられる連続的なものとして捉えようとした。さらに、決して完全に相互浸透し、融合することのない二つの文化の周辺にある人間を「マージナル・マン」と呼んだ。
4. W. G. サムナーは、シンボリック相互作用論を提唱し、言葉を中心とするシンボルを媒介とする人間の社会的相互作用における解釈過程に着目した。そして、他者という鏡に映っている自分の像のことを「鏡に映った自己」と呼んだ。
5. W. I. トマスは、F. ズナニエツキと共同で『ハマータウンの野郎ども』を著して、その中で都市に特徴的な生活様式として「アーバニズム」を提唱した。これは、人口量が大きく、密度が高く、社会的に異質の人々の集落としての都市から生ずるとした。

【No. 52】 次は、ジェンダーやセクシュアリティに関する記述であるが、A、B、Cに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

- 人間の性は、生物学的性である「セックス」、Aである「ジェンダー」のみならず、セクシュアリティや性自認といった多様な次元の構成物であるということが明らかになっている。
- S.ド・ボーヴォワールは、『第二の性』の中で、「人は女に生まれるのではない。女になるのだ」と述べ、女性らしさはBなものではないことを指摘した。
- I.イリイチは、資本主義社会において、家事労働は、賃金労働の相補的位置付けでありながら、暗黙に存在する「C」となり、代価を支払われず、労働として自覚されなくなっていくことを指摘した。

A	B	C
1. 性的指向	生得的	シャドウ・ワーク
2. 性的指向	後天的	ヴァナキュラーな労働
3. 社会的・文化的な性	後天的	ヴァナキュラーな労働
4. 社会的・文化的な性	後天的	シャドウ・ワーク
5. 社会的・文化的な性	生得的	シャドウ・ワーク

【No. 53】 N. ルーマンの学説に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 『社会システム理論』において、社会システムを、その構成要素であるコミュニケーションが更なるコミュニケーションを継続的に生み出す自己言及的なオートポイエシス・システムとして捉える社会システム論を展開した。
2. 『パワー・エリート』において、当時のアメリカ社会の分析を通じて、経済・政治・軍事のパワー・エリートを頂点とし、中間レベルでは拮抗し合い均衡状態にある諸勢力があり、その下に政治的に断片化され無力化された大衆が広がっているという図式を描いた。
3. 『社会学の根本概念』において、社会的行為を四類型に分類し、そのうち、「目的合理的行為」とは、他者や外界の事物の将来あり得る状況を推測し、それを合目的な行為の条件や手段として利用する行為とした。
4. 『公共圏の構造転換』において、市民たちに開放された、自由なコミュニケーションの空間として、「公共圏」という概念を提起した。その原型は17世紀から18世紀のイギリスやフランスにおけるカフェやサロンにあり、そこでの芸術や文学をめぐる人々のコミュニケーションが、新聞、雑誌などのマス・コミュニケーションの起源であると主張した。
5. 『自由からの逃走』において、自由を獲得した個人が、その孤独と不安を解消するために、新たな権威に強迫的にすがろうとしたり、自我を失った自動人形になったりしていると指摘し、このような現象を「自由からの逃走」と呼んだ。

【No. 54】 リーダーシップ研究に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア. K. レヴィンは、形式的に正しい手続によって定められた法規を当事者が順守することによって成り立つ支配の類型を「カリスマ的支配」と呼んだ。また、カリスマは、「カリスマの日常化」の過程をたどって、その非日常的性格を永続的に発揮できるようになるとした。

イ. 三隅二不二は、リーダー行動パターンを課題志向的な側面であるP機能(課題達成機能)と人間関係志向的な側面であるM機能(集団維持機能)の二次元で表したPM理論を提唱し、集団の生産性やメンバーの意欲・満足度において、最も効果的なリーダー行動パターンは、PM型であるとした。

ウ. F. E. フィードラーは、「専制型」、「民主型」、「放任型」の三つのリーダーシップ・スタイルの効果を検討する実験によって、「放任型」においては、集団の作業の質・量共に最も優れているのに対し、「民主型」においては、集団の作業の量のみが優れていることを明らかにした。

エ. R. J. ハウスは、リーダー行動を「構造づくり」型の行動と「配慮」型の行動の二つの側面で捉え、その効果は集団が取り組んでいる仕事の性質によって異なるとするパスゴール理論を提唱し、単純反復作業を中心とする定型的業務に従事する場合には、「配慮」型のリーダー行動が効果的であるとした。

1. ア, イ
2. ア, ウ
3. イ, ウ
4. イ, エ
5. ウ, エ

【No. 55】 逸脱理論に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. É. デュルケムは、非行サブカルチャーについて、中産階級的な価値が支配する社会に対する労働者階級の非行少年の反動形成によって生まれるものであるとし、彼らは、非行集団内部での地位の獲得ではなく、富の獲得のために犯罪に走ると主張した。
2. H. S. ベッカーは、『アウトサイダーズ』において、社会集団は、これを犯せば逸脱となるような規則を設け、それを特定の人々に適用し、彼らにアウトサイダーのレッテルを貼ることによって、逸脱を生み出すというラベリング論を提唱した。
3. R. K. マートンは、非行少年自身による自らの逸脱行動に対する合理化・正当化の方法として、五つの様式をとる中和の技術論を提唱した。その五つの様式の中で、仲間に対する忠誠の証としての非行であると合理化することを「責任の回避」とした。
4. G. M. サイクスとD. マツァは、社会的絆の強弱によって非行の原因を説明したボンド理論を提唱し、その社会的絆には「愛着」、「投資」、「巻き込み」、「規範観念」の四つの要素があるとした。そのうち、「巻き込み」とは、両親・学校・仲間との情緒的つながりのことである。
5. E. H. サザランドは、自殺の社会的要因に注目し、自殺の三つの類型を提示した。その三つの類型の中で、道徳的秩序の崩壊によって、人々の欲求が無規制状態に陥ることで、不満や焦燥や幻滅を感じた人々が持つ自殺への志向性を「集団本位的自殺」とした。

【No. 56】 次は、合理的選択に関する記述であるが、A、B、Cに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

合理的選択理論は、人間は最小のコストで最大の効用を得ようとして常に合理的な選択を行っているとする合理的な人間像と、社会をそのような行為を集計した結果として捉える原子論的な社会像を特徴としている。

M. L. オルソンは、人々はエゴイストであり、協力行動に伴うコスト負担を避け、恩恵にのみ浴しようとして になりたがるため、協力行動が得がたいとした。また、 を供給できるのは、直接には と関係のない選択的誘因を成員に提供できる大集団のみとした。

一方、A. センは、「」として、利己心の追求＝効用最大化だけを動機とする「ホモ・エコノミクス」が社会的に見れば愚者に等しいとした。

A	B	C
1. フリーライダー	社会関係資本	孤独な群衆
2. フリーライダー	社会関係資本	合理的な愚か者
3. フリーライダー	公共財	合理的な愚か者
4. ゲートキーパー	社会関係資本	合理的な愚か者
5. ゲートキーパー	公共財	孤独な群衆

【No. 57】 A. シュッツの学説に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 理論と調査との相互作用を通じて経験科学的な根拠を持つ理論を「中範囲の理論」と呼んだ。それは、調査研究を通じて豊富になっていく小作業仮説と、多くの経験的現実のうちに認められる巨大な概念図式との中間にあって、この両方の機能を独自に活性化させていくものとした。
2. 諸個人が相互に他者に志向し、他者に作用を及ぼし、他者から作用を受ける過程である心的相互作用において社会が成立すると考え、この相互作用の示す様式を「社会化の形式」と呼び、これを研究対象とする「形式社会学」を成立させた。
3. 人間の自我の形成過程について、ままごとなどのごっこ遊びを通じて、他者の自分に対する役割期待を自己に結び付けて、やがて「一般化された他者」の自分に対する期待の内面化が行われて初めて、社会的自我を持った人間が形成されると論じた。
4. 現象学的社会学の立場から、現実をそれぞれ特殊な認知の様式を持つ多くの意味の限定的領域から成り立つ「多元的現実」であると捉え、日常生活の世界で経験している現実は、他者とともに経験され確認される間主観的な現実であると考え、それを「至高の現実」と呼んだ。
5. 人間の日々の生活と行為を演劇と同じものと考え、行為者をパフォーマー又はオーディエンスとみなして記述し分析する方法であるドラマトルギーを提唱し、対面的相互行為と社会規範・社会秩序との関連を明らかにしようとした。

【No. 58】 『令和3年版 少子化社会対策白書』における我が国の少子化の状況及び対策に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 地方公共団体による結婚支援の取組の一環として、令和2年12月1日時点で全国の都道府県において、AI等を活用したマッチングシステムが導入されたが、お見合いに至る割合は導入前と比べて低下している。
- B. 婚姻率(人口千人当たりの婚姻件数)は、平成22年以降、一貫して上昇しており、それに伴い、50歳時の未婚割合は低下傾向にある。また、平成27年の50歳時の未婚割合を男女で比べると、女性の方が高い。
- C. 年間の出生数は、未婚化・晩婚化等の進行により、昭和50(1975)年以降、減少傾向にある。令和元年の出生数は、90万人を割り込み、過去最低となり、「86万ショック」と呼ぶべき状況となった。
- D. 男女共に仕事と子育てを両立できる環境を整備するため、従業員の育児休業等取得に積極的に取り組み、一定の要件を満たした企業は、厚生労働大臣の認定を受けると認定マークを使用することができるなど企業の両立支援の取組の「見える化」が図られている。

- 1. B
- 2. A, B
- 3. A, C
- 4. B, D
- 5. C, D

【No. 59】 我が国における刑事司法制度に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 法テラス(日本司法支援センター)は、国及び地方公共団体の関係機関等と連携して、消費者問題における中核的な機関としての役割を果たすために設立された。そこでは、刑事手続や法的紛争解決に係る情報提供業務や私選弁護等関連業務などを行っている。
2. 刑の一部執行猶予制度は、10年以上の懲役又は禁錮の言渡しを受けた者のうち、刑事施設での行状が良好であったものに対し、刑期の一部を実刑とするとともに残りの刑期の執行を猶予することで、刑事施設の被収容者の収容人員を削減するための制度である。
3. 被害者参加制度は、被害者等が刑事裁判に参加できる制度である。この制度によって、被害者等は、公判期日に出席できるほか、情状事項に関して証人を尋問すること、自らの意見陳述のために被告人に質問することなどができる。
4. 心神喪失者等医療観察制度は、心神喪失等の状態で軽微な犯罪を行った者に対し、継続的かつ適切な医療及びその確保のために必要な観察・指導を行う制度である。この制度は、裁判官ではなく医師が対象者の処分を決定する点に特徴がある。
5. 少年法の適用年齢の上限は、民法上の成年年齢が18歳に引き下げられること等を踏まえ、令和4年4月に改正された少年法によって18歳に引き下げられた。この法改正によって、18歳以上の者の刑事手続は、成人と同様に取り扱われることとなった。

【No. 60】 社会調査を実施する上での留意点に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 標本調査を実施する際には、母集団を構成する全ての要素の選ばれる確率が等しくかつ独立であるようにするために、無作為抽出法を用いることが推奨されている。
- B. 量的データを処理する際、分布の中心的位置を示すために散布度を求めることがある。散布度としては、分布の重心を表す最頻値、データを大きさの順に並べた時に全体の中央に位置する平均値などがよく用いられる。
- C. 質問紙調査を実施する際には、一つの質問でなるべく多くの情報を得るために、例えば、「あなたは、料理や洗濯をどのくらいの頻度で行っていますか。」というように、複数のことを同時に尋ねる設問を作ることが推奨されている。
- D. 質的調査においては、統計的な処理が前提とされている。また、インタビューを実施する際には、調査対象とする集団・組織・地域社会に入り込み、その成員の一員として振る舞いながら、質的データの素材を収集することとされている。

- 1. A
- 2. A, B
- 3. B, C
- 4. B, D
- 5. C, D

U2-2022 專門多肢

正答番号表

No	正答	No	正答	No	正答
1	1	21	4	41	4
2	3	22	1	42	5
3	1	23	4	43	1
4	4	24	2	44	5
5	1	25	5	45	3
6	5	26	2	46	4
7	5	27	5	47	3
8	3	28	2	48	2
9	3	29	3	49	2
10	5	30	1	50	1
11	4	31	2	51	2
12	2	32	1	52	5
13	4	33	2	53	1
14	1	34	5	54	4
15	3	35	4	55	2
16	3	36	3	56	3
17	2	37	2	57	4
18	4	38	3	58	5
19	1	39	3	59	3
20	2	40	4	60	1